

私の夢のきっかけ

静岡県立吉原工業高等学校 電気科 3年
片川 素弥

私が初めて電気を知ったのは小学生のころでした。そのころはいつも遊ぶことを考えていて、難しいことなど考えようともしませんでした。そんな私が電気を知るきっかけとなったのは静電気でした。

それは下敷きで遊んでいる時でした。下敷きで髪を浮かせて遊んでいる時、父から「静電気で遊んでいるのか」と声をかけられ、「静電気って何？」と返したのが始まりです。その質問をすると父は静電気について楽しげに語り出したことを今でも覚えています。それから父と電気の話をするようになり、次第に電気の仕事につきたいと考えるようになりました。

高校生1年生になり、ダムの見学をさせていただいた時のことです。その現場で働いている人が「こんな地味な仕事でも、人の役に立っているとわかるととてもやる気が出るのです」と話してくださいました。その言葉を聞いたときに私は幼い時に父に言われた言葉を思い出しました。それは「電気は社会の歯車、電気技術者はその社会の歯車を直す者だ。」という言葉です。幼い時はまだ「社会の歯車」という言葉の意味が私にはわかりませんでした。その時やっとその意味がわかりました。「歯車」は「縁の下の力持ち」という意味なのだと思います。縁の下の力持ちが頑張ってくれているからこそ私たちの生活が成り立っています。私は、私たちの生活を支えてくれる隠れた努力を続けている人達にあこがれるようになりました。

2年生になり、行事の中で職場体験がありました。その職場の従業員の方々を間近で見た時、私は働く上で大切な気持ちがあるのだと確信しました。それはその仕事に対しての誇りです。その職場の人は皆元気よく、仕事をしていました。自分の仕事の人々に役に立っていると感じることに皆誇りを持っているからだともわかりました。この体験から仕事に対しての誇りが働く上で大切なことだとわかりました。

そして、私なりに電気技術者としての誇りとは何かと考えました。誇りとはお客さまが電気機器を安心して使えるようにすることだと考えました。この誇りを胸に、仕事を長年続けていくことで、仕事にやりがいを感じられるようになり、仕事が楽しくなっていくと思います。この2つを心に刻み、就職した際には仕事を頑張っていきたいと思います。

自分に覚悟や信念ができてからは勉強や実習に取り組む気持ちが大きく変わり、2年生の時に第二種電気工事士を受験し、合格しました。

ものづくりコンテストにも挑戦し、高校生の部で3位に入賞することができた時は、大きな達成感を感じることができました。今は第一種電気工事士の受験に向けて、毎日勉強をしています。

私の夢は静電気から始まっています。あの時、静電気で遊んでいなかったら、私は電気技術者という職業を知らずに生活していたと思います。そして、何より父の言葉や現場の人の言葉がなければ、ここまで歩んではいませんでした。静電気というとても小さなきっかけで電気と出会い、父や現場の人の言葉で視野が広がり、私の夢が創りあげられました。私は、立派な「縁の下の力持ち」となり、電気を使っている人の笑顔のために働ける技術者となります。